

(5) 研究・研修活動

- ① 毎月1回定例研修会を行う。(内容は学年別研修会や講演会等)
- ② 研究内容と活動の方向性については、研究推進部や支部長会、幹事会で検討し、研究内容の具現化を図る。
- ③ 幹事による研修を充実し、幹事としての力量を高め、本部・支部の研修内容を高める。
- ④ 研究発表大会、支部長会、幹事研修会、神奈川県小学校教育研究会社会科部会・学年別研修会等を通して、研究の交流、情報交換の場を充実し、研究の活性化を図る。
- ⑤ 研究主題に関する考え方の深化発展を目指し、各種講演会を開催し実践に役立つようにする。

(6) 研究組織及び活動

会の運営のために、次に示す部会を設置したり、活動を行ったりする。

① 学年別研修会

3年、4年、5年、6年の4部会を設置する。全ての会員で構成し、部長・副部長をおく。授業実践を通して、研究主題・研究内容等についての事例研究並びに理論的研究を進める。

② 支部長会

各支部の支部長及び役員で構成する。研究計画、諸行事、研修会の運営が円滑にできるよう調整を図るとともに、本部と支部、及び支部相互の交流と調整を進める。

③ 幹事会・幹事研修会

市幹事全員と役員で構成する。研究計画の審議や決定を行うとともに、幹事の力量を高める研修を行う。また本市研究会の推進役としての自覚をもって、研究活動の系統立った発展に努める。

④ 研究推進部

定例の研修会、研究発表大会、神奈川県小学校教育研究会社会科部会主催の学年別研修会に向け、会員が積極的及び、充実した実践提案ができるように支援するとともに、会員相互の交流を通して、社会科研究の深化を図ることができるように努める。研究の成果や課題を明確にし、系統立てた研究発展に資する。

- ・研究推進部長、副部長、学年別研修会の部長・副部長及び役員で構成する。
- ・研究活動の推進調整、並びに理論構築を図る。
- ・学年別研修会の円滑な運営と研修会の充実を担う。
- ・アンケートを作成、集約し、研修会の振り返りに生かす。
- ・研修会の内容を「研修会記録」にまとめ、会員に発信し、周知する。また各実践提案をまとめた冊子「研究のまとめ(研究集録)」を作成し、頒布する。

⑤ 情報部

市幹事と役員で構成する。研究主題に基づく研修活動から活動方針・内容に関する理論的示唆を受け、実践研究の充実のために役立つ情報を広く提供していく。「講演会」「研究発表大会」のプロジェクトを構成し、部長・プロジェクトリーダーが中心となり、担当役員と相談しながら、主体的かつ創造的な活動を行うよう努める。また、会報を発行し、社会科教育に関する情報や研究の成果・内容などを会員および各学校に広める。

⑥ 社会科授業づくり部

市幹事及び会員、また会員以外の教員で構成する。社会科研究に新たな志をもって臨み、互いの実践について話し合ったり、これまでの優れた実践記録を読み合ったりすることを通して、授業実践力を高めるとともに、交流を図ることができるようにする。

⑦ 研究発表大会

研究発表大会は、市社研の研究主題や研究内容をうけた個人テーマを設定した上で実践に取り組み、その実践をもとに市社研の研究を検証し、会員に対して広く発表する場である。

発表者は発表担当区の代表者であるが、実践については、区をあげて取り組むこととする。

⑧ 学びの充実部会（特別委員会）

横浜市内の各学校において、よりよい社会科授業が展開されることを目指し、1人1台端末の活用方法をテーマに、端末の利用が「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実にどのようなかかわっているかの視点で子どもの学びを分析し検証することで、さらなる指導の改善や学習意欲の向上に生かす。またその成果を発信する。

⑨ 役員会

横浜市小学校社会科研究会の研究活動全体を総括し、各会・部の調整を図る。

（7）研究の進め方

① 学年部

- ア 学年部では学年部長を中心に、研修会主題の研究をしていくために、研修会主題に迫るための視点をもとに、各学年の特性をふまえた学年で大切にしたい手だてを示す。
- イ 研修会で研修会主題に迫るための視点をういた授業実践を提案してもらい討議することによって研修会主題についての研究を進める。
- ウ 授業提案の1回目の事前研に関しては、部長・副部長を中心に、該当単元の実践例や各学校の指導計画例を持ち寄り、参考資料とする。

② 研究推進部

- ア 推進部は推進部長を中心として研修会主題に迫るための視点をもとに研修会を通して吟味することを設定する。
- イ 各学年部会の設定する「学年で大切にしたい手だて」を整合性のあるものにする。
- ウ 学年別研修会の司会や記録、研修会の振り返りアンケートの作成と集約、速報の発行を担当し、研修会を円滑に運営する。
- エ 研修会の内容を知らせるために、「研修会記録」にまとめ、ホームページにも掲載する。掲載内容は提案の概要、討議内容、講師の先生の指導内容を中心とする。
- オ 年間の実践を紹介する冊子「研究のまとめ（研究集録）」を作成する。

③ 実践者

- ア 実践提案・授業提案には会員の方々が中心となってあたる。
- イ 授業実践、実践提案者は、研修会主題に迫るための視点をもとに手だてを考え、提案の際に位置付けるようにする。
- ウ 実践提案については次のことに留意する。
 - ・ 子どもの姿が分かるよう、提案の仕方を工夫する。
 - ・ 1時間の授業記録、単元における子どもの考え方の変化等を掲載し、具体的な子どもの姿が分かるようにする。
 - ・ 個人情報に関しては十分配慮をする。
- エ 県小社の提案に関しても各部会での実践提案と同様の扱いとする。
- オ 研修会活動には、先輩の先生方を講師として招聘し、指導を仰ぐようにする。

④ 配慮事項

- ア 研修会での話し合いは、具体的な事例をもとに進める。各学年部で設定した手だてをもとに、研修会主題に沿った話し合いができるようにする。
- イ 地域的な偏りはなるべく避けるように授業者を決定する。また、部会だけでなく各支部においても運営、内容面で十分な協力体制がとれるようにする。（実践提案も同様とする）

（8）会員及び会費

- ① 本市小学校教員を対象として年度始めに支部を通して募集する。
- ② 年間1500円とし、年度始めに支部を通して納入する。